

# ぎかい



2016.4.18

小国町議会だより 第128号

## 2016年度入社式



# がんばります!

表紙関連記事は  
14ページ

## 一般会計当初予算 5対4で可決

### ピンナップ

- 28年度当初予算内容
- 予算審査・質疑
- 一般質問5名登壇

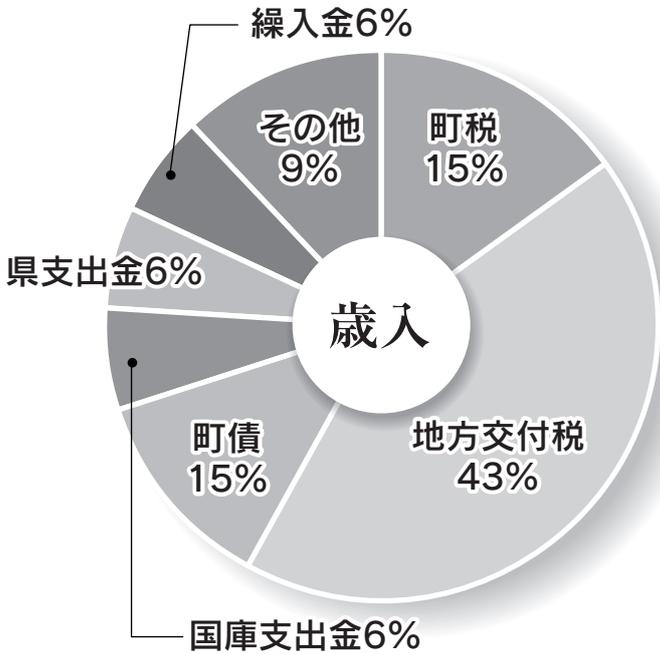
# 予算 増強

平成28年 3月定例会

3月3日(木)～11日(金)

前年度より4.6%増

積極型予算を可決!



人工透析医療へ一歩を踏み出す町立病院

人権擁護員

推薦について意見を求められ、適任と認めた。

◆氏名 松山 茂 氏 (新任)  
◆住所 小国町岩井沢

条例改正の主なもの

- ◆行政不服審査会条例の設定
- ◆町営バス設置及び管理に関する条例の一部改正
- ◆介護保険条例の一部改正
- ◆勤労者住宅設置条例の一部改正
- ◆消防団条例等の一部改正

請願

奨学金制度の充実と教育費負担の軽減を求める請願について、願意妥当と認め、関係機関へ意見書の提出を可決した。

請願者

一般社団法人

山形県労働者福祉協議会

理事長 岡田新一

◆意見書の要旨

- ①速やかに大学等において国の給付型奨学金制度を導入するとともに、高校を含めて拡充すること。
- ②当面、貸与型奨学金は無利子とし、制度拡充までの間、返済金は元金・利息・延滞金の順に充当するとともに、所得に応じた無理のない返済制度を確立すること。
- ③大学等の学費の引き下げや授業料減免の拡充を実行すること。



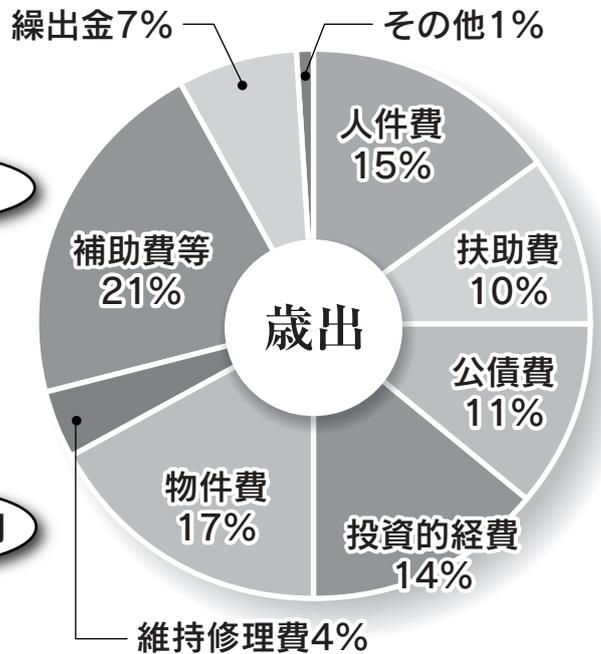
活性化が期待されるきのこ産業

# 平成28年度 一般会計当初 投資的経費

## 総額59億5800万円の

### 主な事業計画

- ◆ 防災行政通信システム整備事業 **3億7013万円**
- ◆ 福祉医療給付事業 **5634万円**
- ◆ きのこ産業づくり推進事業 **5219万円**
- ◆ 高齢者社会に対応した施策 **662万円**



### 平成27年度 一般会計補正予算を可決

- |              |                        |            |                         |
|--------------|------------------------|------------|-------------------------|
| <b>総務費</b>   | 番号制度に伴うセキュリティ対策強化に係る経費 | <b>民生費</b> | 年金生活者等支援臨時福祉給付金事業等に係る経費 |
| <b>農林水産費</b> | 農業機械の購入に係る助成経費         | <b>土木費</b> | 雪崩防止柵の設置に係る経費           |
|              |                        | <b>その他</b> |                         |

計2億180万1千円を追加

## 総額67億6千5百万7千円

# 平成28年度予算審査特別委員会

## 総務企画課

**Q** ふるさと納税返礼品の充実が求められるが、選定の基準はあるのか。

**A** 当町の特産品であることを選定基準としている。

なお、品目は昨年5月時点10品目、12月には15品目に増えている。

納税額は平成27年3月末19件43万円、平成28年2月現在1263件1771万円となっている。

**Q** 旧コバレントマテリアル(株)から取得した西勤労者住宅と駐車場の借入金6億4千万円の償還が始まるが、年間の償還金額はいくらか。

**A** 平成28年度より年間2800万円の返済予定額である。

**Q** 小玉川振興事務所の

維持経費と振興事務所としての活動の成果はでているのか。

**A** 維持経費は人件費194万円、施設経費74万円である。

平成25年に策定した「小さな拠点」づくりの活動方針に沿い、地域と連携しながら人的な支援や情報発信を行っている。これらの活動は非営利的なものであり、収益や成果がすぐに表れるものではない。

いが、継続して行く中で南部地区全体の活性化に繋がるものと考えている。

## 町民税務課

**Q** 防災行政通信システムの概要は。

**A** 当町の地理的条件を踏まえ、各家庭に防災ラジオを配備し、迅速に末端集落まで情報を伝達する仕組みを整備する。また、大規模災



償還が始まった西勤労者住宅と駐車場



スクールバスを利用した町営バス

害等を想定し、町中心部及び指定避難所等に屋外拡声器を整備する。

さらに、消防団へのデジタル簡易無線器の配備を拡大し、末端集落や孤立集落の状況把握機能を確保する。

**Q** 消防団の装備拡充の内容は。貯水槽整備も急務ではないのか。

**A** 消防団員装備を画的に整備することし、27年度から2カ年計画でヘルメットを、28年度から3カ年計画で救助用半靴の整備を行う。

貯水槽整備は来年度より随時行っていく。

**Q** 町営バスの利便性の向上と経費の抑制について今後の考えは。

**A** 地域公共交通網形成計画に基づき、地域特性や社会環境を踏まえた持続可能で利便性の高い公共交通の仕組みづくりに取り組み、地域との協働による域内空白地有償運送の導入やスクールバスと路線バスの一体的な運行体系づくりを進めている。

く。

## 地域整備課

**Q** 旧コバレントマテリアル(株)から取得した西勤労者住宅と駐車場の使用料収入と管理委託料の収支バランスは。

**A** 使用料の年間収入は、勤労者住宅約672万円、駐車場約1188万円を見込んでいる。管理委託料が約1549万円であり、単年度収支ではプラスである。

**Q** 住宅リフォーム助成事業の利用状況と利用者の評価は。

**A** 平成27年度56件の利用があった。内容は雪対策、バリアフリー化、省エネ化の改修に利用されており、利用者からは好評を得ている。

## 教育委員会

**Q** 休校校舎の管理費と今後の活用方法は。

**A** 管理経費は昨年度より15%の減とした予算になっている。

今後も関係課、地域の方と協力しながら活用法について検討していく。

**Q** 教育用タブレット購入予定台数は。

**A** 小国小、小国中、叶水小中で計42台の購入を計画している。

## 産業振興課

**Q** きのこと産業づくり推進事業の詳細と生産目標は。

**A** きのこと栽培に取り組む若手の担い手育成と産地化による産業振興を目的としており、28年度は菌床製造施設と

培養施設を整備する予定である。

栽培する品種は、シイタケ1万8470床、キクラゲ7500床、ナメコ6120床、マイタケ3000床、トビタケ1750床、タモギタケ1000床、原木マイタケ2万3000床を予定している。

**Q** 同窓会等を支援する目的は何か、また、支援金額はいくらか。

**A** 移住交流推進事業の一環として、新たにUターン施策として行う。支援内容は、町外・県外在住者が一定の割合で参加する同窓会等の開催費用の一部を支援するものである。

里帰りする機会をとおしてUターンへの呼びかけを行うとともに、移住の意向等の情報把握を行いたい。

## 健康福祉課

**Q** 高齢者の生活実態調査を委託して行うとされているが、調査ばかりではなく、既存計画に基づいた実践が必要ではないか。

**A** 調査結果を受けて、行動計画を作成したい。

**Q** 幼児英語指導員によるふれあい事業は、保育士のスキルでできる範囲ではないのか。

**A** 幼児への英語指導資格を持つ者が行っており、指導を受けた子どもへの入学後の評判もよいため、継続して実施していく。

**Q** 人工透析患者の通院状況は。

**A** 40代2名、50代7名、60代4名、70代6名、80代4名の計23名が週2〜3回透析を行っている。

ている。

それぞれ、公立置賜病院、松下クリニック（長井市）、新潟県立坂町病院等に通院している。

## 町立病院

**Q** 人工透析の実施により医療スタッフの負担が増し、診療体制に影響が及ぶことはないのか。



小国町立病院

**A** これまでの診療体制に影響がないよう、看護師の採用、研修の充実を図るとともに、医療スタッフ間の意思疎通を図り万全な体制を確立する。



予算案について慎重審議が行われた

# 総括質疑

## 間宮尚江議員

### 移住交流事業について

**間宮** 移住交流事業の一環として、町内で開催される同窓会等の一部経費に対し補助するとされているが、具体的な金額、対象は設定されているのか。また、この施策をとおして移住まで進められる環境は整っているのか。

**町長** この支援については、新たな移住交流を推進する上でのUターン施策として位置づけている。

町内で同窓会等を企画・実施する代表者、

実行委員会組織を対象に、一人あたり千〜二千円程度の交付を考えており、一回あたり上限五万円を想定している。町外、県外に住む小国出身者を対象に、里帰りする貴重な場を活用し、町民全体でUターンを呼びかける場としていただく趣旨である。

### 人工透析に携わる医師体制について

**間宮** 人工透析の実施にあたっては、山形大学医学部から医師派遣のめどがたつたこととであるが、その派遣医師に事故があった場合の体制はどの様になっているのか。また、夜間透析実施は考えているのか。

**町長** 派遣医師に事故があつた場合は、町立病院と山形大学医学部との連携の中で対応されるものと理解している。

透析の実施にあたっては、当面は午前のみ

三名から開始し、段階を踏み詳細を検討していく。

**間宮** 今後、若年層の透析患者の増加が懸念されることであるが、仕事を抱えた患者さんが、離職や休職の不安なく夜間透析を受けることができるメリットは大きいものと考えている。

町立病院の長期的な経営ビジョン、派遣医師の継続的な確保、治療中等における容体悪化に対応する体制等が確立されていない以上、時期尚早と感じられるため、今は透析患者の送迎に力を注ぐべきではないか。

決して透析患者の命を軽んじているものではない。命を論ずるのであれば、小さな命を抱える妊婦、生まれ来る子ども、小児を抱える若い世代にも目を向け、産科、小児科の充実も視野にした予算組みを考えていただきたい。



総括質疑に立つ小林議員

## 小林嘉議員

### 人工透析、命に係わる事態は専門医が必要

**小林** 透析患者の容体急変や休日など医師不在時はどの様に対応するのか。

**町長** 想定されるトラブルに対してはマニュアルにそつて対応する。

**小林** 専門医が不在の時、患者に容体の急変があつた場合、マニユ

アルで対応できるのか。専門医がいなければ不可能ではないか。

**町長** 医療現場の問題の答弁は差し控える。

**小林** 町長は予算の議決を迫るが、命に関わる事態は想定していないと理解せざるを得ない。

**町長** 専門的な医療行為については答弁する立場にない。

なかつたのか。

**町長** 個人情報なので町で把握すべきものではない。

### 転院できない患者には送迎対策が必要

**小林** 合併症を持つ透析患者の方は、最悪の場合転院できないことも想定される。送迎対策、通院交通費助成の補強等で公平性を確保することが必要ではないか。

**町長** 最初は三人からとなるため検討課題ではあるが、明確な返答は差し控える。早期に大半が可能になればその方向で考えたい。

**小林** 以前、看護基準の関係から、研修に派遣した看護師二名を研修途中で現場に復帰させたことがあつた。病院経営が悪化すれば一般会計からの支出が増える。今後、透析患者さん全員の治

療を考えれば、さらに医療スタッフの補充、設備投資が必要になるのではないか。

**町長** 看護師の補充は行っている。将来の増床には検討が必要である。

**小林** 町立病院は早期発見の早期治療の、予防医療を理念としていると認識してきたが、今後、専門医療に軸足を移した病院経営を目指していくのか。

**町長** どちらかを選択するという考えはない。地域包括医療は全国モデルになっている。

**小林** 「人口一万人復活」を標榜する町長が、地域医療の将来に向けて、予防医療、専門医療の選択を迫る問題提起とも受け取れる。

町立病院の将来を左右する大きな決断を迫るにしては、情報提供に乏しいと言わざるを得ない。課題解決策を明示のうえ再提案すべきである。

## 予算審査特別委員会報告書

3月3日予算審査特別委員会に付託された、平成28年度小国町各会計予算案については、議長を除く全議員を委員とし、各課予算質疑及び総括質疑を行い、細部に渡り審査にあたってきた。その結果について報告する。

本予算は、総額109億1370万1千円、前年度比4.6%の増額。一般会計では59億5800万円、4.6%の増額となっており、投資的経費を増強した積極型予算と評価されるが、これまで以上の効率的な事業執行と、一層の財源確保に努められたい。

昨年10月に策定された小国町地域創生総合戦略における重点プロジェクトを本格化する具体の施策について、関連事業が予算化されており、安全・安心な町民生活の確保の一層の強化と、その礎の下に、本町の自然特性を活かした新たな産業の創出に向けた取り組みが計画されている。町内中核企業の好景況に相乗し、町内経済の活性化が図られ、総合的な施策の連携により就業機会が拡大し定住基盤の確保につながることを期待する。

なお、小国町病院事業会計予算において、人工透析の実施に向けた施設整備等の関連経費が計上され、一般会計予算においてはそれら整備に関連する出資金が計上されている。小国町立病院での人工透析実施の環境整備については、透析患者の負担軽減を図る上から最も必要とされる機能整備と理解できる。

安心・安全な治療のためには、専門医の確保と診療体制について、しっかりと担保されることを強く望むものであり、それら条件を整えられた上で、施設整備等に着手されるよう要望する。

以上の意見を付し、原案のとおり議決すべきものと決しましたので、会議規則第41条の規定により報告いたします。

平成28年3月11日

予算審査特別委員会  
委員長 伊藤 重 廣

小国町議会議長 高野 健 人 殿

### 少数意見報告書

28年度一般会計予算が可決されたが、少数意見報告書が提出された。

提出者 小林 嘉

賛成者 遠藤和彦、今 康成、間宮尚江

#### ◇意見の要旨

一般会計予算及び病院事業会計予算について、以下のとおり原案に反対する。

一般会計出資金を財源に、町立病院で新たに人工透析治療を開始する提案は、今議会の審議過程においては、安心・安全、安楽な治療体制が整っていると確信できる答弁を得ることができなかった。

山大医学部第一内科からの専門医派遣期間が不明確、専門医不在時の容体急変時対応への不安、患者全員の意向を明確に把握しないままの計画、受入体制の十分な論議・院内合意がなされているとは判断できず、命を守る地域病院としては不安が残るなど、検討課題が数多くあることが明らかになった。加えて、過去に医師の中途退職により頓挫した苦い経験を活かしている提案とは言い難い内容である。

今回の提案は、町長からの政策医療開始の問題提起と捉え、数多い課題解決に向け再度協議すべきであり、本予算の執行は時期尚早と判断し原案に反対する。

## 平成28年「道の駅」は どう変わるのか



こせきかずよし  
小関和好議員

### 国・県でも 重要拠点と位置 づける「道の駅」

**小関** 県では「道の駅」の機能向上を目指し、二〇一六年から緊急整備事業に乗り出すとのことであり、国においても、「道の駅」は地方創生の重要なツールと位置付けている。

**この度「道の駅」指定管理者の見直しが行われ、商工会から、(有)白森根物産品直売所へ変更されることとなったが、時代にそぐわない変更と言わざるを得ない。**  
指定管理者の選定過程においてどの様な審査が行われたのか。

**町長** 商工会の会員組織であり、会員事業者等で組織されている(有)白森よこね物産品直売所が、当該施設の実質的管理の経験を有することから、指定管理者として選定した。

審査に当たっては、利用者の平等な利用の確保、施設設置目的の効果的な発揮、施設の適正管理など、指定管理者選定委員会の選定基準に準じて審査した。

**小関** 指定管理者が有限会社になったことでどの様なメリットがあるのか。

**町長** (有)白森よこね物産品直売所は、商工会や観光協会の会員事業者等で構成されていることから、施設を活用し物産振興、販路拡大、雇用の確保等を担えると判断した。

**小関** 町はどの様なスタンスで「道の駅」の活性化やマーケティングに関わっていくのか。

**町長** 計画に沿った施設管理をしているか否かを把握するとともに、施設の効果的な活用が図られるよう指導、助言を行っていく。

マーケティングに関しては、独立した法人であることから、会社の販売方針、戦略に基づき展開されるものと承知している。

**小関** 県の緊急整備事業への採択に向けた申請手続きは行うのか。

**町長** 当該事業の概要等について情報収集、分析を行い、「道の駅」の機能向上等が該当すると判断される場合には対応を進めていく。

**小関** 「道の駅」の活性化策は、当初予算に盛り込まれているのか。

**町長** 予算としては、施設管理委託料、給水ユニットの交換、電気自動車用急速充電器の維持管理費を盛り込んでいる。また、県のビジョンを基軸に庁内に検討会議を設置し活性化に向けた対応等を検討していく。



活性化が待たれる道の駅

**小関** 町民から「トイレが臭いし汚い」という声が聞かれ確認したところ、確かにひどいものであった。町の玄関が臭くては、イメージが悪すぎる。活性化以前の問題と考えるが、その様な状況は把握しているのか。

の原因を調査して対応していく。  
清潔なトイレ環境となるよう、管理計画書に基づき清掃を行うよう指導していく。

以上の他、耕作放棄地に対する施策、里山再生に向けた支援策等に関し、町の姿勢を質した。

**産業振興主幹** 状況は把握している。早急に悪臭



## ● 自営業等の経営実態と活性化への施策について ● 町の魅力づくりと定住対策について

いとう しげ ひろ  
伊藤重廣議員

**自営業者、  
農業者が明るい町で  
あることが大切**

**伊藤** 町の明るさは、自営業者、農業者が元気なことが大切と考える。これらの方々の実情と、閉店や離農に追い込まれている実態をどの様に把握・分析し、その要因に対する具体的施策をどの様に考えているのか。

**財源確保を図り  
積極的な  
支援を行う**

**町長** 商工業者の廃業等の理由として、売上げ減少、事業主の死亡や病気が高齢、後継者不在等があげられるとの情報を商工会から得ている。

農業の実情は、高齢化や後継者不足はもとより、米価の大幅な下落、農政の大改革、TPPの影響懸念など、中山間地域である本町にとって極めて厳しい農業環境にあると認識している。

これらの状況に対し、商工会と連携を密にしなから必要に応じた金融支援、企業・創業支援事業等を展開し、振興施策の推進に取り組んでいく。また、農業に対しては、人・農地プランに基づく事業展開のほか、きのこ産業を手がける法人組織の設立支援を行っている。今後も国・県の補助事業を活用し財源の確保を図りながら積極的な支援策を講じていく。

**事業所等の減が  
人口減少に直結する**

**伊藤** 当町は地理的条件などから、町民のほとんどが町内での仕事に従事している。この様なことから、事業所等の減少が人口減少に直結する。国・県の事業を活用した支援とかが、町独自の支援対策が必要だ。



中山間地域にある本町は極めて厳しい農業環境にある

**経済が循環する様々  
な仕組みを作り、人口  
減少に歯止めをかける**

**町長** 人口減少に歯止めをかけるため、経済が循環する様々な仕組みを作り、一旦、町外に出られた方にも帰ってきていただける様な魅力ある町づくりをして行かなければと思っている。

**町の魅力を磨き、  
転入者の増加を  
目指せ**

**伊藤** 今春も、就職先を求めて多くの若者が町外に転出することが予想される。

当町にもっと魅力があり、就労の場があれば、転入によって転出を補えバランスがとれるのではないかと。

**社会減の抑制と  
ともに、魅力ある  
町づくりを進める**

**町長** 転入者を増やすことはとても大事であり、

それによって転出とのバランスがとれるという考え方もあると思うが、転出者を抑制し、いかに社会減を縮小させるかということも大変重要であり、そのための施策をあわせて展開することが肝要と認識している。

昨年行われた国勢調査の速報値によると、首都圏では人口が増え、地方で減少するという二極化が鮮明になっている。

この様な状況から、すでに人口減少克服に向けた地域間競争が始まっており、いかに町の魅力づくりを進めるかは極めて重要な課題である。

このため、住んで良かったと思っていただけの施策として、子育て支援の充実、仕事の創出につながる支援、移住促進に向けた体制づくり等を展開するとともに、当町が有する自然や文化、生業などの魅力を磨くことが、町外者にとっての魅力に結びつくものと考えている。

# 人工透析、安心安全、安楽な治療体制構築の説明は不十分



こばやし よしみ  
小林 嘉 議員

過去の苦い経験を踏まえた体制整備は図られたのか

**小林** 人工透析の実施に向けては、過去に議会審議を経ないまま医師を採用し、その医師が中途退職してしまい頓挫した苦い経験がある。

私は安心安全が確保され、安楽な医療体制が整えば一日も早い実現を願っている者の一人であるが、過去の反省も踏まえた専門医の確保、医療体制は整ったのか。

**医師の確保・医療体制は整った**

**町長** 大きな課題であった専門医の確保について、山形大学医学部等と調整、協議を重ねてきた結果、その実現に向けた条件が整ったため、医療機器整備の関連予算を提案させていただいた。

入院患者への対応が手薄にならないのか

**小林** 限られた医療スタッフに、更に負担を強いることはないのか。また、入院患者への対応が手薄になることはないのか。

**看護師等の人材は確保している**

**町長** すでに2名の看護師が研修を終了しており、臨床工学技士も継続して研修を重ね習熟度が高まっている。

なお、透析患者の受け入れは段階的に増やす予定であり、患者数や実施状況にあわせて人材確保が必要と考えている。

**町立病院での透析を何人望んでいるのか**

**小林** 町内には二十数名の透析患者がいるとうかがっているが、その全て

の患者さんが町立病院での透析を望んでいるのか。

**今後、希望の有無を把握する**

**町長** 透析患者からは、「高齢で通院が大変、できるだけ早い実施を望む」との声が聞かれている。しかし、合併症等の理由で現在の主治医との相談が必要な方もおられるものと思う。

町立病院においては症状が安定している維持透析患者の受け入れを想定しており、今議会で決定いただいた後、個々に意向を聞き対応していきたい。

**機器整備関連経費の内訳は**

**小林** 機器整備関連経費、約六千六百万円の内訳は、

**病院事務長** 透析ベッド・監視装置四台で、約四千万円。精製水製造装置一

台、約千三百五十万円。排水浄化装置一台、約千三百万円程度になる。

**透析実施によって医業収支は**

**どうなる**

**小林** 提出議案には、人件費、その他の費用が含まれていない。医業収支はどのようになるのか。

**病院事務長** 国民健康保険から、一人年間約六百万円。透析患者が二十人となれば単純計算で一億二千万円の保険収入が見込まれる。費用は人件費、材料費等で、年間約七千万円を要する。

しっかりとした計画、説明が不十分

**小林** 山形大学医学部との協議が整ったとの説明であるが、専門医の派遣開始日、派遣期間が明確になっていないなど、信頼できる説明がない。専門医派遣の確約、患者の容体急変時の対応、専門医不在時の体制など、しっかりとした計画が不十分と言わざるを得ず時期尚早と感じられるが、いつ頃の透析開始を見込んでいるのか。

**町長** 年内に関連機器の調達・施設面の整備を終え、年明けから開始したい。当面、月、水、金、週3日。午前のみ3名の受け入れを考えている。



透析機器イメージ



- 地域資源ブランド化が目指すところは
- マンネリ化を打破し更なる観光振興を
- ミラノ万博を起爆剤とした活性化に向け

いしやまくみこ  
石山久美子 議員

## 地域ブランドの 目指すものは

**石山** 「小国町地域創生総合戦略」、「過疎地域自立促進計画」にある地域ブランドに向けた具体的な事業内容を伺う。

対策が必要と考える。

「森林セラピー事業」、「おぐくに夏まつり」、「石楠花まつり」等もマンネリ化し、新たな取り組みが必要と感じられるが、平成二十八年度の観光交流事業として目玉となる新たな企画はあるのか。

**町長** 本町の地域資源の魅力を町内外に広く発信するため、統一したイメージによるブランド化を進め、認知向上を図り、特産品等の販売拡大、様々な交流促進の展開を目指し必要な調査研究を行うものである。

本町の「山の幸」、「川の幸」、「里の幸」、「マタギ文化等の「文化・芸能」これらを「白い森の国おぐくにブランド」として発信するための戦略を構築することとしている。

## 観光活動を もっと活発に

**石山** 観光交流人口を拡大して活性化に結びつけるには、更なる観光振興

## ミラノでの 経験の成果は

**石山** ミラノ国際博覧会への出展を起爆剤とした今後の具体的な事業展開を伺う。

**町長** 山形DC（大型観光キャンペーン）を契機に、新潟駅、米沢駅を起点とした日帰り森林セラピーツアーを実施してきたが、参加者から高い評価を得ており、継続して実施する方向で調整を進めている。

また、労働安全衛生法改正により、事業者には労働者のストレスチェックが義務化されたため、職場のメンタルヘルス向上のための活用幅が一層広がるのが期待されており、企業等の研修、保養基地として活用いただくべく、滞在プラン等を作成して情報発信し、利用拡大を進めていく。

## 雑穀の

## 生産体制は

**石山** 雑穀の生産体制の確立に向け、今後の具体的な事業展開を伺う。

**町長** 町内では7件の農家が雑穀栽培に取り組んでいる。

作付面積は二・七ヘクタールで、生産量も三トンを超え、いきいき街づくり公社が開発した『たかきびうどん』の生産にに対し安定した原料の供給が見込まれている。

また、生産者や関係団体において栽培面積の拡

大や生産・加工技術の向上、販路拡大に向けた新たな検討も進められており、町では、いきいき街づくり公社による『タカキビパスタ』や『雑穀甘酒』の特産品開発事業を支援している。

今後においても栽培面積の拡大が見込まれるが、生産・加工技術面での課題も多くあることから、生産者と関係行政機関等が一体となり課題解決に取り組む、本町を代表する振興作物として生産拡大が図られることを期待する。

さらに、ミラノ国際博

覧会出展事業では人材育成を重点項目の一つに掲げており、参加した四名の農業者におかれては、ミラノでの貴重な体験を糧に高い志をもって活動に専念され、本町の六次産業化推進の牽引役として大きな期待を寄せられているところである。



ミラノ国際博覧会でのプレゼンテーション

## ●役目を終えた休校校舎景観維持、財政負担をどうする？ ●大型観光キャンペーンがもたらした波及効果と次の観光誘客の一手は？



ま みや ひさ え  
間宮尚江議員

### 旧小国小学校舎 どうするのか

**間宮** 小国小学校の旧校舎が景観上も好ましい状況とは言えない廃校の姿である。

旧校舎にはアスベストが使用されていることもあり、解体するにしても近隣住民への十分な配慮が必要と思われる。

解体の予定、跡地利用の方策、更に旧小国小を含む休校校舎の維持管理経費が与える財政負担についていかがお考えか。

### 財源無くして 解体は難しい

**町長** 数億に及ぶと見込まれる解体に取り組むには、何よりも財源確保が必要であるが、現在のところ優れた財源は無く、有効な制度の情報収集に努めている。

一方、解体後の跡地利用も並行して検討課題と捉えており、地域のより

所としての機能等を果たすべく活用方法を検討していきたい。その検討段階においては、地域住民の皆さんと十分な相談をしながら進めていくが、町づくり全体の中で土地利用の方向性や整備するための財源手当て等についても、検討、議論が必要となる。

休校校舎の維持管理の総額は、平成二十六年度決算では約二千二十七万円となっている。今後は施設の効果的な利活用計画も考慮しながら、効率的な維持管理方法を検討していく。

### シンボルを失った 地域へ元気を与える 政策を

**間宮** 学校は地域コミュニティの核として、地域住民と関わりを持ってきたからこそ共同意識も生まれた。そのシンボリックなものが失われたとき、地域社会の存続に直接影響してくる。

地域の存続には住民自らが立ち上がり、自分たちの地域は自分たちで守るという自助努力も必要なのだろうが、そこに向かわせるような施策を期待したい。

また、旧小国小跡地利用にあたっては、十分に地域住民との意見交換を重ねるとともに、解体にあたってはアスベストを含め十分な安全対策について配慮いただきたい。

### 観光誘客へ 繋げる次の一手は？

**間宮** 大型観光キャンペーン『山形DC』が三年間にわたり展開されてきたわけだが、この観光キャンペーンがもたらした

宣伝効果や波及効果、更には今回の結果を受け今後どの様に観光誘客へ繋げていくのか。

**町長** 山形DCを契機として、様々な企画やイベントが実施される中、近

隣市町や観光団体等の連携が強化され、ネットワーキング構築やノウハウ取得に至っていると認識している。それらを基盤として、より広域的に取り組み、新たな観光交流事業を展開していきたいと考える。

また、山形DCを通して本町の観光イベント、自然環境、施設、人材等が注目につながる素材であるということの証明がなされた。今後も交流人口の拡大と町内経済への好影響を生み出し、経済の好循環へと結びつけていきたい。

**間宮** 山形DCが町中心部にもたらした経済効果をどの様に分析しているのか。

**商工観光主幹** 金銭的な経済効果は把握していないが、期間中、ある程度の入り込みがあり、一定の効果があつたものと考えている。

**間宮** 町長は折にふれ、「平野 歩夢」選手を称えられた。全くそのとおりだと思う。すばらしい選手である。

ただ、今年は雪が少なかった。雪の無い中、ハーフパイプの整備をされる方々は、非常に苦労されたと同っている。町長も、その様な現場の方々直接向けを出して、「ありがとう」と、首長として言っていた良かった。私は、それも一つのトップセールスではないかと、そのように考える。

# 総務厚生常任委員会

## 結婚支援・子育て支援への 取り組みを視察

# 委員会 レポート

Committee Report

■期 日

平成27年12月17日(木)

■視察先

西村山郡河北町

人口19、576人

■視察テーマ・概要

①結婚相談事業について

町の委託を受けた社会福祉協議会が相談所を開設して相談にあたっていているほか、登録会員相互の紹介やお見合い等の支援、他組織との協力・連携を図り事業を展開しており、平成21年度からの取り組みの中で8組が成婚に至っている。

②病後児保育事業について

対象者は病気やケガの回復期にある満1歳から小学3年生までの児童で、家庭保育が困難な場合、子育て支援センター内の病後児保育施設での保育事業を行っている。

利用にあたっては事前登録制で、保育士や臨時看護師が対象児の

利用時間に合わせて勤務時間を組み対応にあたっている。

◇視察を終えて

この様な取り組みを本町で行う場合、①では未婚の方が結婚に対してどの様に考えているのか確認することや相互交流できるイベントの開催が必要と考える。

②では病院との連携、職員の確保など課題と考える。

先のアンケート結果では、同事業への賛否が分かれたこともあり、子育て世代の意向を確認しながら検討の必要があるものと考えている。



結婚・子育て支援の先進的な取り組みを学んだ

# 文教産建常任委員会

## 教育委員会の所掌事務の現況を聞き取り調査

■期 日

平成28年2月19日(金)

■調査内容

①叶水小中学校の

統合について

第三者委員会の最終意見として、中間報告で示した『当面、学校存続のなかで合意形成に向けて議論を継続していく。』との基本方針が『妥当であり望ましい』とされたこと。

全町の統合方針は白紙撤回ではなく、近い将来、小中学校各1校とするなど最終意見の説明があった。

②小国町教育大綱について

学校教育の充実、生涯学習の推進、スポーツの振興を柱に、現下の少子高齢化、高度情報化、教育へのニーズの多様化など、教育を取り巻く環境変化を踏

まえ策定したとの説明があった。

③ICT教育の

推進について

27年度、小国小に電子黒板、書画カメラ、教師用PCを整備し、ICT教育の推進を図っている。

28年度は、叶水小中、小国中にも同機器を整備する予定で、加

# 議会活性化 調査特別委員会

2月8日、議会活性化に向けた一環として、小国高校において「地方議会の制度と役割」と題し

広報広聴活動を行った。学生からはふるさとを思う活発な意見を聞くことができ、大いに刺激を受けた。



町づくりへの積極的な意見が飛び交った



ICT機器の導入により「学びの環境」も変化している

えてタブレット端末も整備すること。

# おらも おぐに町民

町の人から  
ちょっとひとこと



## プロフィール

氏名 川部 裕飛  
年齢 18歳  
勤務先 クアーズテック  
住所 小国町平林 株式会社

## Q 社会人になった感想は。

A まだ社会人になった実感は湧きませんが、自分で働いて稼いだり、運転免許の取得で行動範囲が広がったりと自分で出来ることが増え、様々な可能性を感じて

います。また、選挙権が18才から与えられるので有権者としての義務と責任を果たすために、積極的に参加したいと思っています。

## Q この町の好きなところは。

A 四季が好きです。小国音頭にもあるように、春は桜が綺麗で、夏には自然の雄大さを見ることが出来、秋には鮮やかな紅葉が人々を魅了し、冬には雪が輝くなど、自然がとても美しい町だと思います。

豪雪地帯だからこそ、春の雪解けの時期に感じられる『土の香り』は、自然の壮大さと懐かしさを感じさせてくれるのだと思います。

## Q 小国町に足りないと感じる、行政に望む事は。

A 若者が参加できるイベントが少ないと思います。私是何かイベントがある度にカメラをもって見に行っていました。学生や若者が大勢参加しているのを見たことがあります。若者も参加しやすく、外からも人が来て交流できるようなイベントがあれば、それが将来的に地域の輪になるので

はないかと思っています。何よりも大事なものは、町民一人ひとりがよりよい町にしようと思うことだと思います。この小国町に住む住民が小国町を知り、広めていくことが小国町をよりよくしていく近道だと思います。

## Q 今後の目標は。

A まずは仕事を覚えることです。新しいことにも積極

的に取り組み仕事のノウハウを早く身につけ、自分のスキルアップにつなげたいと思っています。

また、今年は山登りにも挑戦したいと思っています。地元立派な山があるのに登らないのはもったいないと感じています。テレビで見た山頂からの景色が素晴らしいので、是非登りたいと思っています。



### ◇表紙に寄せて

当町の経済を支える中核企業であるクアーズテック様。昨年十月に社名が変わり初めての入社の一コマ。

初々しさが残る若者達は、会社はもちろん町の将来をも支える大切な宝物である。

次は6月定例会です。傍聴にもういっただけです。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62) 2448

## 編集後記

四月、暖かい冬を過ぎて新たな年度を迎えました。少子高齢化の懸念は大いにありますが、春を迎えフキノトウの芽吹きや山々の恵みに感謝しながら、何よりもお隣さんとの会話が弾むそんな日常であってほしいと思います。

積極的な事業展開を打ち出した町予算を検証しながら、町民の思いに沿った政策であるか、しっかりと監視してまいります。ぜひ皆さまの声をお聞かせください。

そして、開かれた議会を目指す広報「議会だより」にも注目してください。

石山 (記)

### 発行責任者

議長 高野 健人

### 議会広報特別委員会

委員長 小関 和好  
副委員長 今 康成  
委員 石山久美子  
間宮 尚江